

伊那市 官民共創の新しいまちづくり協議会

会議名	まちなかエリア高度化 WG			
開催日	2025 年 2 月 19 日(水)			
開催時間	開会	12 : 00	閉会	13 : 00
開催場所	市役所 1 階 WebMeeting ルーム オンライン併用			
出席者				
協議会・WG メンバー	O L : 黒河内貴氏、土田智氏、鈴木孝之氏、政金裕太氏、細谷啓太氏、瀧内貫氏			
事務局・職員	会場：企画部：織井企画政策課長、有賀企画政策課長補佐、福原新産業技術推進コーディネーター			
関係者	—			
欠席者	志知貴文氏、村田新産業技術推進係長			
議事	1、第 2 回目の対話・つながり・実現の場 の開催方法、進め方等について			

議事項目	概要	次のステップ
1、第 2 回目の対話・つながり・実現の場 の開催方法、進め方等について		
進め方(案)について	○WG メンバー ・WG メンバーが提示した案は、基本的な方向性は、ほぼ同じと感じている。 1 番大事なのは、1 番最初に書いた今回のワークショップの位置付けである。 - いろんなキーワードが出た訳だが、それをワーキンググループの中である程度の基本軸を形成して進めてしまっ、もう次のステップに進んでしまうというのは、2 回目としては進み過ぎでは？というのが概ねの意見であったと思う。 ・前は、主語が伊那町になっていたので、同じような話題が出るにしても、今回は、あなた自身とか自分自身ってところからの発話というか、対話を入手するというのが、2 回目の設定の大事な部分である。 ・そこで、2 回目がぐっと進むっていうよりは、1 回目のキーワード集みたいな資料を作成して、参加者にあらかじめ配付するとともに、2 回目はより丁寧なグランドルールの説明が必要であると思う。 ・右下の【Place】と【Identity】の図が今回の大きな 2 つのテーマであり、WG メンバーの提案をアレンジしたイメージ図である。	

2 回目進め方案 への感想、意見 等	・ 20 分のワールドカフェを 2 回行い、それぞれ 1 回ずつ参加することができ、人数、前回と同じぐらいだとしたら、【Place】と【Identity】が 4 グループ位ずつになると思う。 ・ 2 つのテーマ説明に加え、メモの書き方について、単語のみを書いて終わっていることが多いので、文脈の分からない後の参加者や終了後の成果物として分かりやすくなるような記載を促した方がよい。 ・ 前回、どこかのテーブルでメモに 3 つぐらい書いてあった人がいた。メモ数が多くなると、まとめ作業が大変となるので、1 つの話題は、1 つのメモでまとめることを徹底した方がよい。 ・ 問いの 1 つ目は、スペース・場所の魅力をあげていくもので、同心円で示したイメージになる。伊那町だけじゃなくて、郊外やその他、例えば、デジタル空間、ネットとか色々空間がある中で、どこに魅力があるかを可視化するイメージでいる。 ・ 問いの 2 つ目が、その下の図で、人生を一応 5 つぐらいの年代で区切り、区切った模造紙を用意しておいて、その中に、自分自身が 40 代だったら 40 代ぐらいの頃に経験したこととか、こういうエピソードがありますみたいなものを貼ってくようなイメージである。 例えば、参加者が、まだ 20 代とかで、書けるものがない場合にしても、魅力的な 40 代 50 代の人がいふ浮かべられれば、その人のやっていることや活動等を書いてみる。 ・ 終わった後に、比較的整理された状態の模造紙ができ上がり共有が容易となるイメージを持っている。 ・ 左下の図が、Place と Identity の作業が、それぞれ熱量を持って重なるような盛り上がる話題があり、そこからビジョンとかコンセプトを取り出して、具体的にはこのワーキンググループから多様な活動の種が生まれるっていうのを目指していく。 ・ それがどんな状況から生まれてくるのかという、その状況を言語化したり、可視化したりする作業がネクストステップなのかと考えている。 ・ そんな状況を下支えするのが、多分、WG メンバーが言うプラットフォームを作っていくことではないかとまとめてみた。 ○WG メンバー ・ 質問や感想があればお願いしたい。 ○WG メンバー	
-----------------------------------	--	--

	・大筋は、このまま進んで大丈夫というのが最初の印象である。 ・次のステップに向けてのところで触れているが、参加者が第2回を通して、じゃあ次どうなっていくのかっていうのがご自身で分かるといいなと思う。 ・その後3回、4回と参加する道筋が見えていた方が参加しやすいのかなと思う。 ・2回目をこういう形でやることになったことについて、私達がここで話している内容などを共有する場面があってもよい。そうすると、2回目、3回目と参加すると、仲間ができて、実際、自分がやりたいと思っていることが実現できるかもしれないと頭に浮かべば、長くこのワークショップに持続的に参加してくれるかなと思っている。 ・WGメンバーが作ってくれたその先の未来のような1枚があると、そこに向かっていえる。3回目の内容など、具体的にこんな感じでやろうとかまで詰める必要はないと思うが、3回目くらいは大勢の参加があった方がいいと思うので、将来こういう形で進んでいきますというだけでも共有できたらいいと思う。 ○WGメンバー ・細かいが、WGメンバーが前回あげていただいた資料は、資料の1番最初に入れておくべきか、色々終わったあと、最後に入れるのか、多分両方あり得るのかなと思ったが、ご意見あるか。 ○WGメンバー ・最初に多分、プラットフォームのようなものの形成を目指して、3回目、4回目で進んでいきますと言葉で言うのと、最後に、そのプラットフォームとは具体的にこういう枠組みを考えていますと提示できるかと思う。ただ、そこへ向かっていく時に、まちの課題を出していき、課題解決活動をたくさんやる方向がいいのか、1回目、2回目みたいなワークショップを繰り返し、いろんな出会い等の状況があって、こういうプラットフォームを維持しながら何らかの活動が出てくるのですよと説明するのは結構違うと思う。 ・どこまでそれを2回目で説明できるのかっていうのは、現段階では見通しも難しい。 ○WGメンバー 今言われるのは、ワークショップに初めて来る人が常に居続けたらと思うし、そうであってもいいと思う	
--	---	--

が、常に新しく課題を出していくっていうのは結びつくのか、それとも2回、3回、4回と進んでいくに従って、全体がこう前に進んで1つの課題を解決するように動き出してしまうか、そのどちらかという意味でよいか。

○WG メンバー

・そのどちらもでありハイブリッド的かと思う。

○WG メンバー

・まちとは？からその下の、あなたは？と書いてあるが、この、あなたは？というところ、元々、全体のところでもグラドルールがあったかと思うが、そこに関わることによって、結局、じゃあ自分、あなたは何します？どう関わりますか？何しますか？というところで、具体的に何か動きが起こるのではないかなと思う。

・街にこういうものが欲しいとか、こういうものがあるといいと言っている時は出ないが、あなたがどうするかっていう時に、私これを始めますとか、そのためにこれをやりますっていうようなことになり、具体的に動き出すのかなっていう風に思った。けれど、これからの場が、あなたは？という風になっていけば、新しい人が出てきても、じゃあ既に起こっているところに関わってくるとか、新しくこういうことをしたいですということで、また新しいものが実際に起こっているということになるのではないかなと思う。あなたは問われているというのを具体的に、そこを問うという設定してはどうかと思った。

○WG メンバー

・まとめていただいた資料の赤字の部分大事であると受け止めでよいかな。

○WG メンバー

・赤字部分を大事にすると、ただ意見が増えていくだけでなく、何らかの形になっていくのではないかなと思う。

○WG メンバー

・前回のワークショップ参加し、資料にあるとおり、客観的なワードが多くて、より主観的な意見聞きたいと思った。

・自分が今の街でどうしていきたいのかというところまで引き出さないと、これがあって欲しいというような、当事者感の少ない話になってしまう。そういう意味で、それぞれ本人がどういう場所でどういう

	ことをしたいのかというのを引き出すワークショップになればよいと思う。 ・そういう意味で、グラウンドルールの設定において、自分がコーディネーターをやって課題に感じたが、どうしてもメモ書のような感じで、後で見た時に分からないような書き方になりがちなので、この徹底は結構意識してやり、後に他の人が見て分かるレベルにする必要があると思った。 ・google マップでピンしながら具体的に街の魅力のポイントを共有していくことは、すごくいい手法だなと思った。そうすることで、個人の主体的な主観的な意見と、街という地域、客観的なところが結びついていくので、立体感が出てくるかなと思った。 ○事務局 ・上手に資料をまとめていただき、クリエイティブなものができそうな場になりそう。グラウンドルールについて、ルールを明確に案内して、成果物が上手に出てくるように心掛けたいと思う。 ○WG メンバー ・次回の会議の予定はどうか？ ○事務局 ・あまり間を置かないよう開催を模索すると思うが、現在は未定である。 ○WG メンバー ・【Place】の図を見ていて気付いたが、まち中の高度化、活性化について、中心市街地において元々する必要はあるのか？の意見がベースにあり、その答えらしきものを感じたが、世界があり、日本があり、伊那市があるように、伊那市に人を集めていくというか、移住もしかり、注目をしてもらうとか、何かを発信していくでもそうだが、そうなる時、どこが核となるかというのは、世界、日本、長野、伊那ときて、核となる場所はどこかと言ったら、市役所ではないと思う。 ・全体、人、エネルギー、経済、いろんなものの核となる場所について【Place】の図でいくと、やはり街中、この「中心市街地」という場所になるのではと思う。みんな当たり前と考えるかもしれないが、改めて、今回中心市街地のことを話し合い、考えていくと、どうして美簗などの郊外ではなく中心市街地なのかも答えとしてあるのかなと思った。 ○WG メンバー	
--	---	--

まとめと次回	・【Place】同心円のイメージについて、次回のワークショップでは、今の鈴木さんの意見から、円が3つあるが、これを下揃えすると、ちょっと違う図になるが、どうか。 円を下で揃えて、そこに引かれるラインがプラットフォームとなるイメージとなる。すると「その他」「郊外」や「まち」も全部をつなぐプラットフォームという示し方ができ、中心市街地に限らず、みんなが関わるイメージとなる。 ○WG メンバー ・とりあえず、今日の目標である 21 日締め切りであるグループとしての方向性は、WG メンバーの作成資料をベースにし、3 回目、4 回目以降のイメージとしては、WG メンバーが作成したイメージ図をどこかのタイミングで提示していくというような報告でよいと思う。 ・市民参加の第 2 回目の会議開催までの間に、次回の準備のためのワーキンググループを開催する予定とする。	
--------	--	--